

これまでの経緯

福井県高等学校教育問題協議会（高問協）答申

会議の開催 8回(H19.12～H20.9)

- ・今後の県立高校の目指すべき方向性について協議

高問協答申(H20.10)

- ・職業系専門学科の在り方：特定分野の拠点校の設置、幅広い分野を学べる総合産業高校の設置、本県の特徴を生かした新しい学科の設置等
- ・定時制・通信制課程の在り方：昼間2部制の見直し、単位制・2学期制の導入、教育相談体制の充実等
- ・学校規模・配置の在り方：1学級当たりの望ましい生徒数は36人程度(職業系学科や定時制課程は柔軟に対応)
1学年当たりの望ましい学級数は4～8学級(適正規模を継続的に維持するため、少なくとも5～6学級を確保)



県立高等学校再編整備計画策定

新しい県立高校の在り方検討会(H20.10～)

- ・再編整備計画案について検討

県立高等学校再編整備計画案公表(H21.2)

- ・パブリックコメントを実施(H21.2～3)

県立高等学校再編整備計画決定(H21.3.30)

再編整備の基本的方針	第1次実施計画
<ul style="list-style-type: none"> ・第1次実施計画(H21～23)：全日制高校(奥越地区)の再編、定時制・通信制課程の見直し ・第2次実施計画(H22～25)：全日制高校(福井・坂井地区、嶺南地区)の再編 ・第3次実施計画(H23～26)：全日制高校(丹南地区)の再編 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥越地区の全日制高校の再編整備 総合産業高校の設置等 ・定時制・通信制課程の見直し 昼間二部制の見直し、単位制・2学期制の導入等



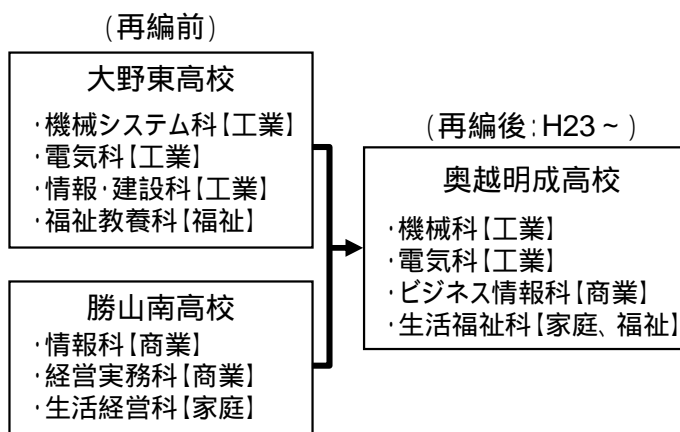
第1次実施計画の推進

奥越地区の全日制高校の再編整備

- ・「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」(H21.8～12) 会議2回、高校ごとの専門部会を5回開催
12月に報告書提出
- ・23年4月 奥越明成(めいせい)高等学校開校

定時制・通信制課程の見直し

- ・22年度から、全ての定時制課程において単位制、2学期制を導入
- ・昼間二部制の見直し



第2次実施計画(坂井地区)の策定に向けて

高校教育懇談会の開催

- ・第1回(H21.10.30)
- ・第2回(H21.12.11)

高校教育懇談会における主な意見等

(再編整備計画について)

- ・少子化や時代の流れも非常に速く進んでおり、再編は必要。
- ・学力でなく、子どものやりたいことに基づいて進路を決めるような体制をとって欲しい。
- ・入学から卒業まで、3年間の心の変遷を追いかけて、挫折する生徒を少なくして欲しい。
- ・県立高校の再編計画を進めていく上で、私立高校の現状等もみるべきである。
- ・福井市内の県立高校の定数の見直し、削減も検討すべき。

(総合産業高校について)

- ・総合産業高校は、幅広い学力の生徒を受け入れる高校になるので、新しい教育の形を作ってもらいたい。
- ・地元産業界として、高校で学ぶ技術系科目を集めることはありがたい。
- ・総合産業高校も、普通科を切り離すことで職業系の子どものための大学への進学意識が弱まることのないようにしていただきたい。
- ・坂井地区に大規模な職業系の高校を一つ作るとなると、通学手段の確保など、費用、時間の面から負担が少ない方法が必要。
- ・坂井農業高校の周辺には空き地があり、増築も可能。実習用畑の確保を考えると、坂井農業高校を本校にするほうが非常に有益。
- ・丸岡から他の高校に行こうとすると、大変不便。統合に当たってはアクセスについて一考してほしい。
- ・学校へのアクセスが重要。特に春江工業高校はJR、えち鉄、縦貫道があり、商業圏としても発展している。

(職業教育について)

- ・技術者などの人材を育成する学科や高校を大事にして、残して欲しい。
- ・工業系は資格が重要。基礎学習を2～3年やった後に、工業系の学習をしたいなら専門を2年ほど行うといった体制があってもよい。
- ・企業には、あまり社員の基礎教育をする余裕がない。基本的な部分を公教育の中でやって欲しい。
- ・農業教育を大切にして、地域に根ざした学校づくりをしてほしい。
- ・農業学科だから農業へ就職ということではなく、幅広く考えて欲しい。資格の取得に力を入れて、就職率を高め、企業の求める人材を輩出して欲しい。
- ・食糧問題など潜在的に農業に理解をもつ生徒を育てていくことも非常に重要であり、農業コースを充実させてほしい。
- ・金津高校の商業科の半分を再編し、残りの半分を普通科高校に残す考え方はできるのか。